

# 令和4年度 茨城大学教育学部附属中学校 学校評価について

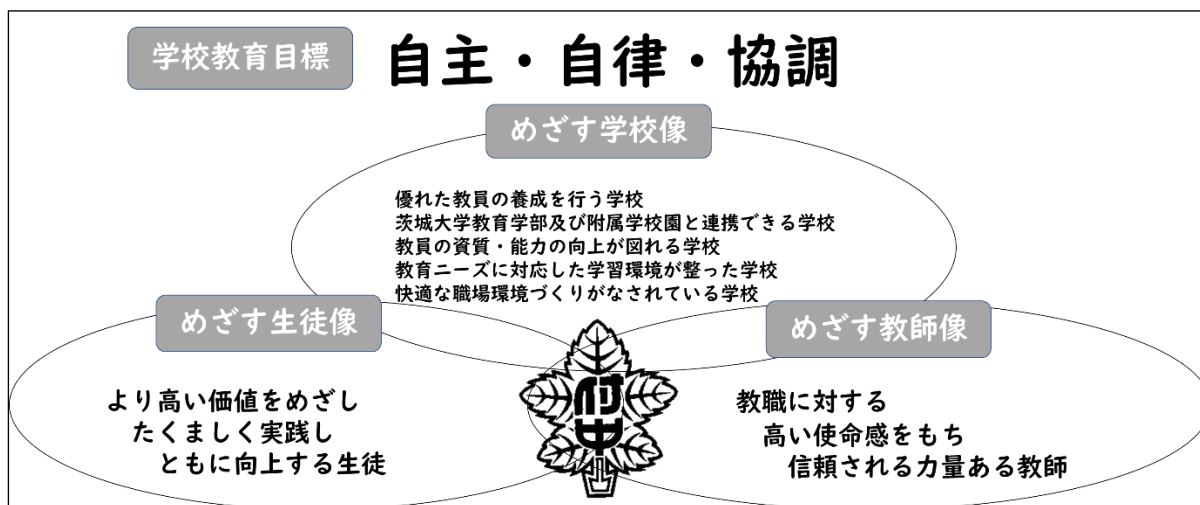
## 【ねらい】

本校は、国立大学法人茨城大学教育学部の附属学校である。その使命を踏まえ、令和4年度は次のような目標の下に、学校経営、教育活動を行ってきた。本学校評価は、学校評議員と学校関係者評価委員とともに、これらの目標がどの程度実現されているか、実現できなかったことはどのようなことか、今後実現するために何をすることが有効と考えられるかについて検討するために行う。

## 1 組織目標

- 研究推進・普及，教員養成，人材育成で，附属学校として，茨城の教育を支える。
- 目標をもち，考え学び続ける生徒の育成を推進する。（自主・自律）
- よりよい人間関係を築き，他者とともに成長する環境づくりを推進する。（協調）

## 2 学校教育目標



## 3 評価の項目・内容

1 学校教育目標及び重点目標	6 関係機関とのつながりを生かした学習環境の整備
2 質の高い授業の実践	7 ICT機器の整備と活用の推進
3 よりよい人間関係を築き，他者とともに成長する生徒の育成	8 教職員の心身の健康増進と豊かな学びの推進
4 誰もが居心地のよい学校づくりの推進	9 開かれた学校づくりの推進
5 実社会との接点を重視した自主的・自治的な活動の推進	

## 4 評価者及び評価の流れ

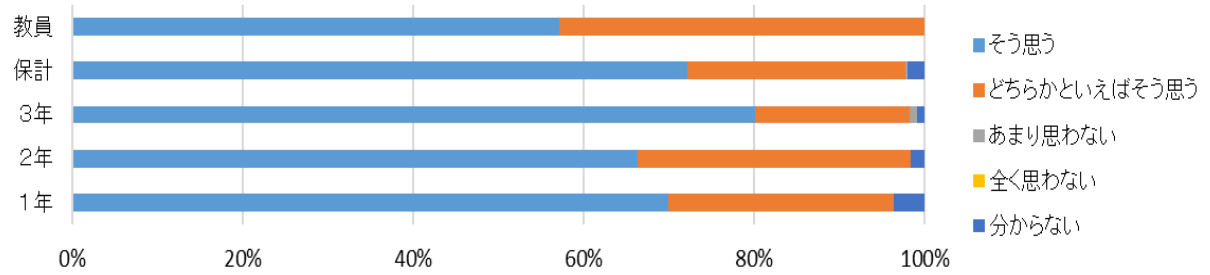
- 本校教員による自己評価を行う。
- 保護者対象による調査を行う。
- 学校評議員会及び学校関係者評価委員会にて説明し，評価を受ける。
- 明らかになった課題点について，次年度に向けて改善策を検討する。

# 令和4年度 学校評価資料

1 学校教育目標及び組織目標	評価
<p><b>【主な実践】</b></p> <p><b>〈質の高い授業の実践〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 学校研究・授業研究会 「学びの価値を実感する生徒の育成」をめざす研究の1年次に取り組んだ。</li><li>・ 授業研究会 →今年度は制限を設けた対面及びオンラインで実施した。 期 日 : 令和4年6月23日(木), 24日(金) 研究推進委員会…週1回, 全体研修・研究部員会…必要に応じて開催</li><li>○ 茨城大学教員との共同研究の推進 ・ 大学教員, 教職大学院生との共同研究授業を進めたり, 大学教員の研究テーマと連動して授業実践を行ったりした。</li><li>○ 研究成果の発信 ・ 本校及び教員個々の研究成果を広く発信し, 本校の存在意義を示すとともに, 教育の向上に貢献できるよう努めている。具体的には, 本校の研究(個人研究も含む)を, 本校研究紀要及び論文で発信したり, 研修会等で発表したりしている。</li></ul> <p><b>〈よりよい人間関係を築き, 他者とともに成長する生徒の育成〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 品位ある生活態度と実践(適切な言語環境の構築, 傾聴姿勢の確立) ・ 3学年グローバル市民科における講座「哲学すること～自分とは」では, 相手の話に傾聴する学びの実践が行われた。</li><li>○ 教育課程全体を通じた道徳教育の充実 ・ 水戸市総合教育研究所の2年次教員の道徳研修の場として, 各学年1名が道徳の授業を実践し, 範を示した。高萩市などの要望に応じ, 道徳研修の場を提供した。教員相互の研鑽の場として十分に練り上げ, 「特別の教科 道徳」の授業を実践した。</li></ul> <p><b>〈誰もが居心地のよい学校づくり〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ スクールカウンセラーや茨大大大学院生による「心のサポートセンター」の活用 ・ 「サポートセンター」の運営 教育臨床心理の大学院生が交代で本校に常駐</li></ul> <p><b>〈関係機関とのつながりを生かした学習環境の整備〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 四附属学校園との情報共有や連携推進 ・ 附属学校小委員会(月1回): 副校長 ・ 四附属教務担当者会(月1回): 主幹教諭が参加 ・ 小中連絡協議会の実施 3月下旬に実施予定 ・ 教職大学院の課題発見実習の受け入れ(5月), 院生との共同研究授業(11月～) ・ 教育実習生の受け入れ 基本教育実習(7月～11月/茨城大学, 各私立大学) ・ 大学1年生の教育実地研究の受け入れ(授業参観) ・ 大学生ボランティアの受け入れ ・ 大学の研究への協力 授業の実施, アンケートの実施など</li></ul> <p><b>〈実社会との接点を重視したキャリア教育の推進〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 総合的な学習の時間「グローバル市民科」の充実 ・ 学年で創出するカリキュラム「講座」 4つ(または3つ)の講座を学年で実践 ・ 附属特別支援学校との交流</li></ul> <p><b>〈ICT機器の整備と活用の推進〉</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ ICT機器を効果的に活用した授業の推進 ・ 「ロイノート」等のアプリを活用した実践 ・ 対面授業をオンラインで配信し, 生徒の学びを停滞させない工夫と配慮 ・ ICT支援員による「情報モラル」講座の実施</li></ul>	

**【学校教育目標及び組織目標】**

学校は、学校の教育目標や組織目標の実現に向けて、適切に学校経営を進めている。



**【次年度に向けて】**

- 新年度の新たな研究に向けて、今年度までの成果と課題を整理するとともに、先進的な研究に努めていく。
- 各教科・領域等の授業改善を通して、更なる学校教育目標の実現をめざす。
- 学校内外の人的・物的リソースを有効に活用し、教育活動の質の向上を図る。(附中S V)
- 大学カリキュラムセンターとの連携をとおして、学校運営及び経営の質の向上を図る。

**2**

**質の高い授業の実践**

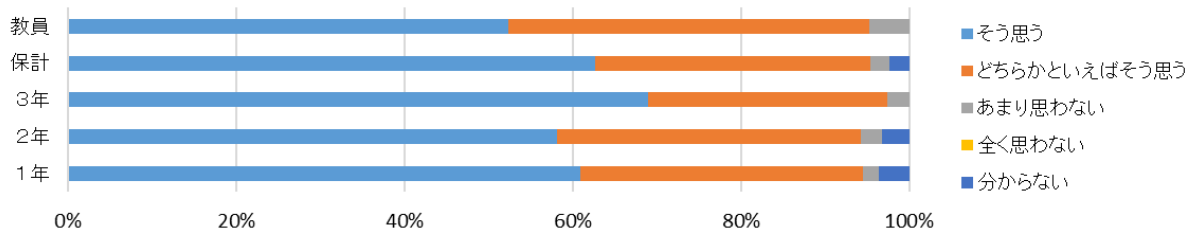
評価

**【主な実践】**

- 学校研究・授業研究会
  - 「学びの価値を実感する生徒の育成」をめざす研究の1年次に取り組んだ。
  - ・授業研究会 →今年度は制限を設けた対面及びオンラインで実施した。
  - 期 日 : 令和4年6月23日(木), 24日(金)
  - 研究推進委員会…週1回, 全体研修・研究部員会…必要に応じて開催
- 茨城大学教員との共同研究の推進
  - ・大学教員, 教職大学院生との共同研究授業を進めたり, 大学教員の研究テーマと連動して授業実践を行ったりした。
- 研究成果の発信
  - ・本校及び教員個々の研究成果を広く発信し, 本校の存在意義を示すとともに, 教育の向上に貢献できるよう努めた。具体的には, 本校の研究(個人研究も含む)を, 本校研究紀要及び論文で発信したり, 研修会等で発表したりした。

**【質の高い授業の実践】**

学校は、学校研究の充実と、授業改善を適切に行っている。



### 【次年度に向けて】

- 年間指導計画及び別葉の加筆・修正をする。
- 研究1年字を終えて、有効であった手立てを整理する。
- 授業研究や校内研修の場を確保するとともに、道徳科の授業の在り方を共有化する。
- 魅力的な教材の開発や学校生活(学校行事)とリンクした単元開発に努める。
- 「社会との連携・協働」の実現を目指し、地域との連携、学部人材の活用を推進する。
- 考え・議論する道徳の具現化に向けた授業研究、授業開発、研究実践を積み重ねていく。
- 自主的な活動の承認と推進を図る。

## 3 よりよい人間関係を築き、他者とともに成長する生徒の育成

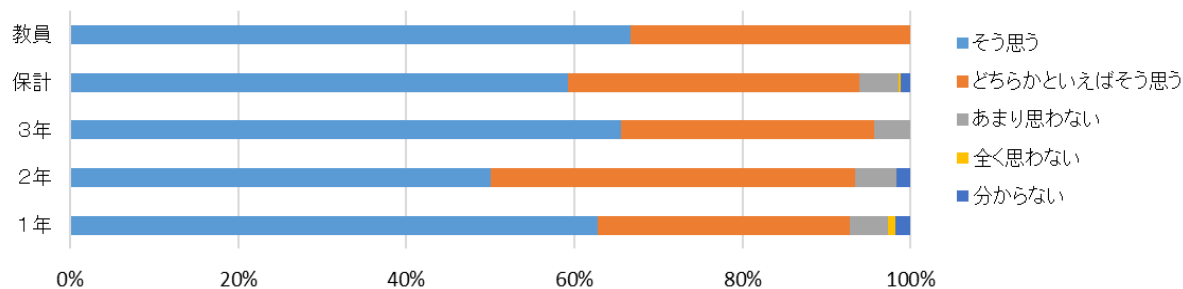
評価

### 【主な実践】

- 品位ある生活態度と実践(適切な言語環境の構築, 傾聴姿勢の確立)
  - ・3学年グローバル市民科における講座「哲学すること～自分とは」では、相手の話に傾聴する学びの実践が行われた。
- 教育課程全体を通じた道徳教育の充実
  - ・水戸市総合教育研究所の2年次教員の道徳研修の場として、各学年1名が道徳の授業を実践し、範を示した。高萩市などの要望に応じ、道徳研修の場を提供した。教員相互の研鑽の場として十分に練り上げ、「特別の教科 道徳」の授業を実践した。

### 【よりよい人間関係を築き、他者とともに成長する生徒の育成】

教員は、生徒の品位ある生活態度を涵養するために、適切な言葉づかいがなされる環境を構築するとともに、傾聴する姿勢が確立されている。



### 【次年度に向けて(案)】

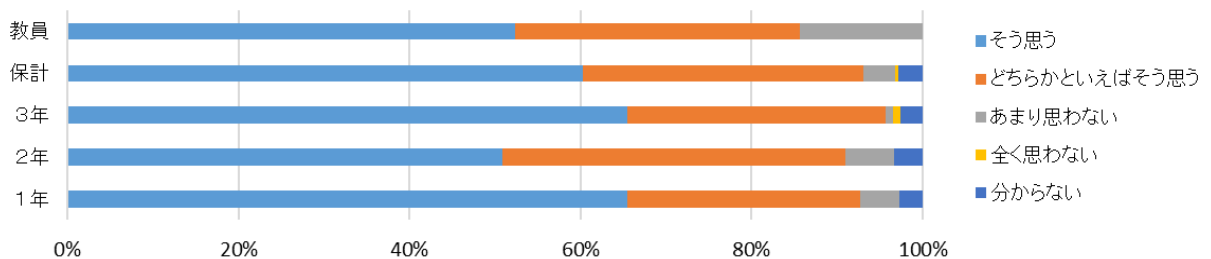
- 教職員の人権意識を啓発する研修の充実に努める。  
(「全くおもわない」保護者への対応の在り方の事例研修)
- 教職員、保護者、生徒が共に学ぶ場を設定し、共通理解を図る。
- つまづきのある生徒への個別支援や合理的配慮事項を具体化して教育実践を勧める。
- 学校全体で道徳研修を深めるとともに、対話や声かけ、支援の在り方のスキルを高める日々の実践を充実させる。

## 【主な実践】

- スクールカウンセラーや茨大大学院生による「心のサポートセンター」の活用
  - ・「サポートセンター」の運営 教育臨床心理の大学院生が交代で本校に常駐し、支援が必要な生徒の相談や自主的な学習の支援等を行った。
  - ・令和5年2月に正保春彦教授による「グループワーク研修」を実施した。本研修をとおして教師と生徒、または生徒間の関係を構築する関わりづくりのスキル向上を目指した。

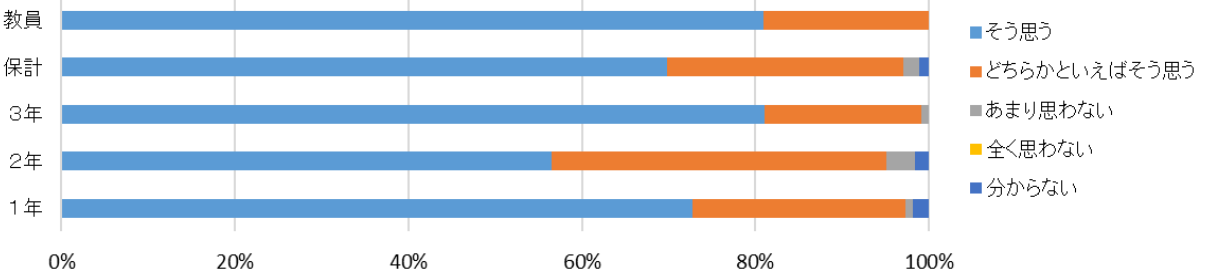
## 【誰もが居心地のよい学校づくりの推進①】

教員は、生徒が相手意識を大切にし、礼儀とマナーを身に付けられるように指導している。



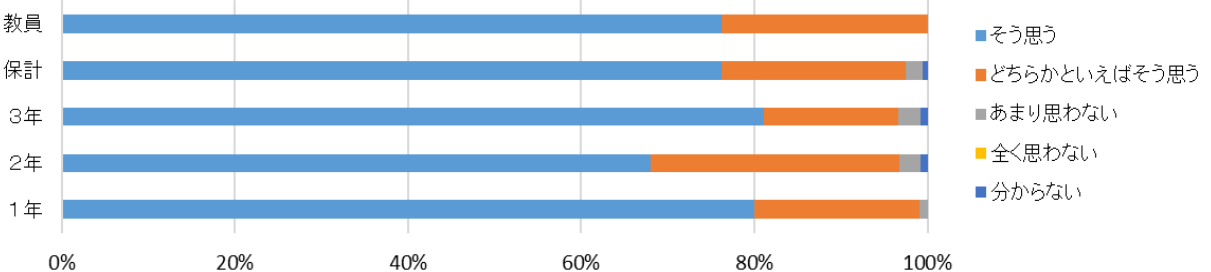
## 【誰もが居心地のよい学校づくりの推進②】

教員は、生徒が目標をもち、目標を実現するために適切に支援するとともに、温かみのある学級や学年の集団を築こうとしている。



## 【誰もが居心地のよい学校づくりの推進③】

学校は、個別面談や御家庭との面談を適切に実施し、生徒や御家庭の相談に寄り添い、支援している。



**【次年度に向けて(案)】**

- 定期的に実施する「サポーターミーティング」において、各学年の教員が参加し、情報を共有できるようにする。
- 「グループワーク」を、本校の教育課程にモジュール的に位置付け、常態的・先行的（プロアクティブ）な生徒指導の充実を図る。

5

**実社会との接点を重視した自主的・自治的な活動の推進**

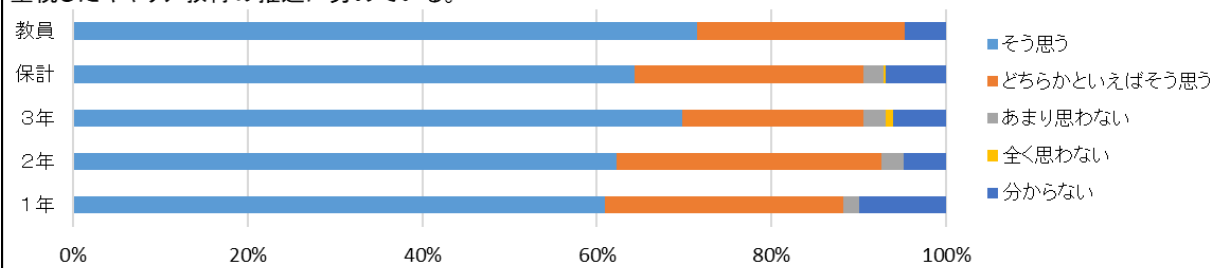
評価

**【主な実践】**

- 総合的な学習の時間「グローバル市民科」の充実
  - ・学年で創出するカリキュラム「講座」 4つ（または3つ）の講座を学年で実践
  - ・第1学年において、附属特別支援学校との交流会を、オンラインで実施した。
- 「梅まつり」におけるボランティア活動
  - ・水戸の梅まつりにおいて、2年生生徒8名が、ボランティアとして案内活動に取り組んだ。

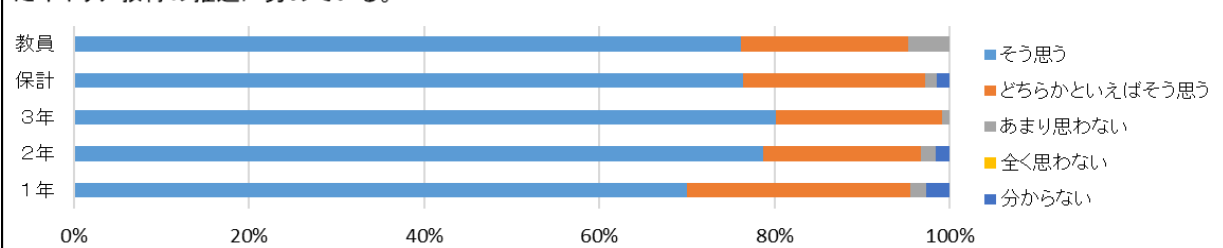
**【実社会との接点を重視した自主的・自治的な活動の推進①】**

学校は、「グローバル市民科」において、ゲストティーチャーを活用しながら、実社会との接点を重視したキャリア教育の推進に努めている。



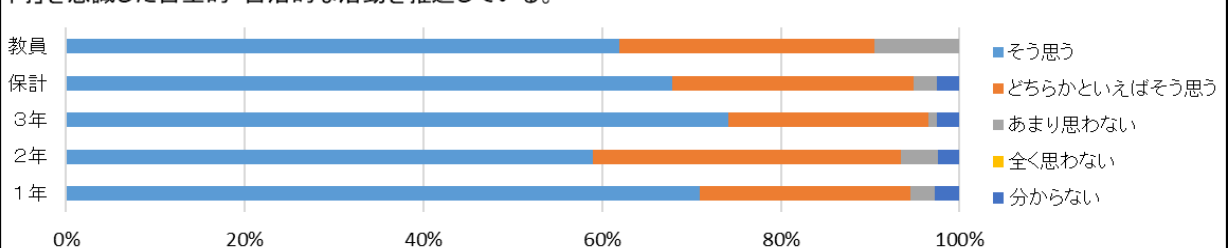
**【実社会との接点を重視した自主的・自治的な活動の推進②】**

学校は、宿泊共同学習やBrithish Hills英語研修などを通して、生徒の実社会との接点を重視したキャリア教育の推進に努めている。



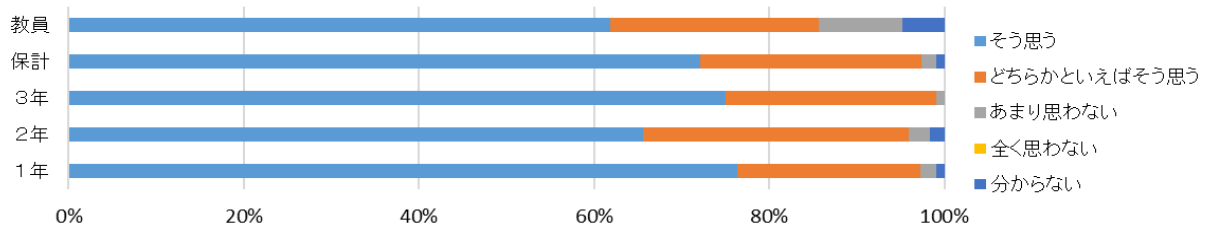
**【実社会との接点を重視した自主的・自治的な活動の推進③】**

学校は、生徒会、学年生徒会、生徒会常任委員会、学級運営委員会などにおいて、「自主の専門」を意識した自主的・自治的な活動を推進している。



**【実社会との接点を重視した自主的・自治的な活動の推進④】**

学校は、附中スポーツフェスティバル、いばら祭、音楽コンクール等の学校行事の運営において、「自主の名門」を意識した自主的・自治的な活動を推進している。



**【次年度に向けて(案)】**

- 引き続き、「グローバル市民科」等における教科等横断的なカリキュラムの中で主に教育実践や講座(単元)開発に努め、その成果と課題を明らかにして、学びの充実を図る。
- 他の学校や他附属と連携した自治的な生徒会活動を推進し、更なる充実を図る。
- withコロナ, afterコロナのビジョンで、実社会における課題に連動しながら教育活動の課題に生徒と共に向き合い、よりよい社会の実現に向けて教育活動を推進していく。

6

**関係機関とのつながりを生かした学習環境の整備**

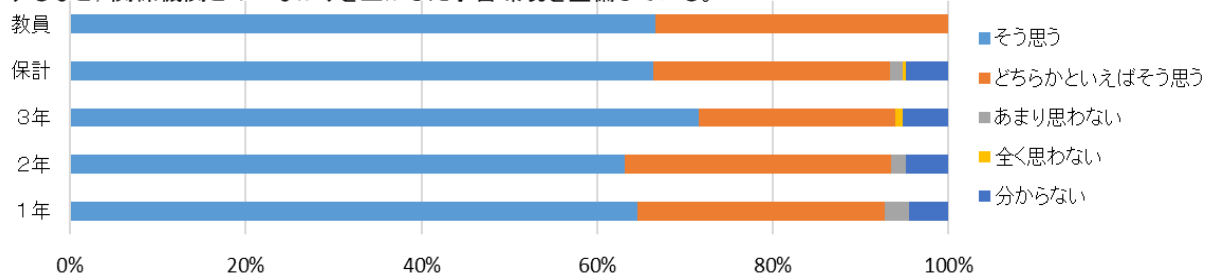
評価

**【主な実践】**

- 四附属学校園との情報共有や連携推進を勧めた。
  - ・附属学校委員会(年3回)：学校長，副校長が参加
  - ・附属学校小委員会(月1回)：副校長
  - ・四附属教務担当者会(月1回)：主幹教諭が参加
  - ・小中連絡協議会の実施 3月下旬に実施予定
  - ・教職大学院の課題発見実習の受け入れ(5月)，院生との共同研究授業(11月～)を実践した。
  - ・教育実習生を受け入れ，基本教育実習(7月～11月／茨城大学，各大学)を実施した。
  - ・大学生による部活動コーチングの実践を行った。
  - ・PTA実行委員会，各常任委員会，附中スクールボランティアと連携して教育活動の推進に努めた。

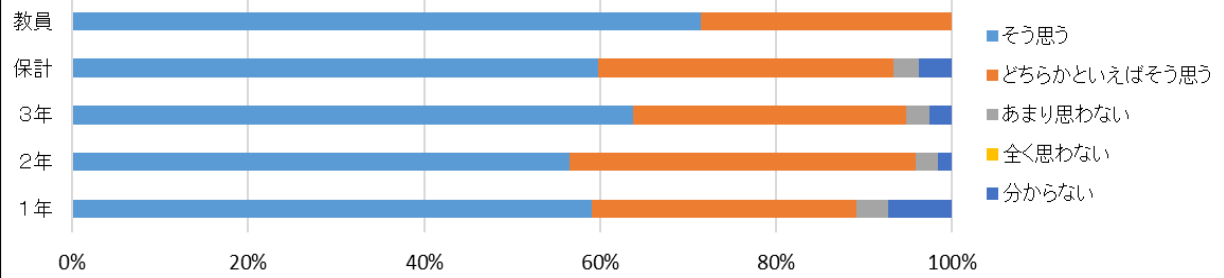
**【関係機関とのつながりを生かした学習環境の整備①】**

学校は、附中スクールボランティアコーディネーターと連携し、附中スクールボランティアを活用するなど、関係機関とのつながりを生かした学習環境を整備している。



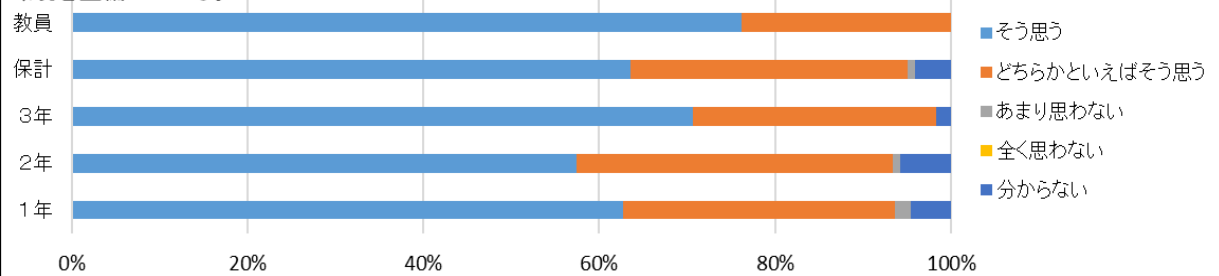
**【関係機関とのつながりを生かした学習環境の整備②】**

学校は、PTA実行委員会や常任委員会と連携し、特色あるPTA活動を推進するなど、関係機関とのつながりを生かした学校環境を整備している



**【関係機関とのつながりを生かした学習環境の整備③】**

学校は、教育振興会、青雲の志応援団と連携し、関係機関とのつながりを生かした学習・学校環境を整備している。



**【次年度に向けて(案)】**

- 四附属学校園の連携をより密にし、きめ細やかな学校経営、運営を実現する。  
(四附属小委員会、教務担当者会の充実、研究主任会、生徒指導担当者会等の設置)
- 附中スクールボランティア活動者の拡張を目指し、活動の広報及び組織拡大の具体的施策を実施するとともに、持続可能な組織体制の構築を実現する。
- 保護者の実態に応じて、持続可能なPTA活動を構築し、誰もが活動しやすい組織体制づくりに努める。
- 学校がコミュニティを形成する主体として機能し、教員、生徒、保護者、ボランティア活動者が一体となって教育活動を展開するコミュニティスクールの機能の充実を図る。

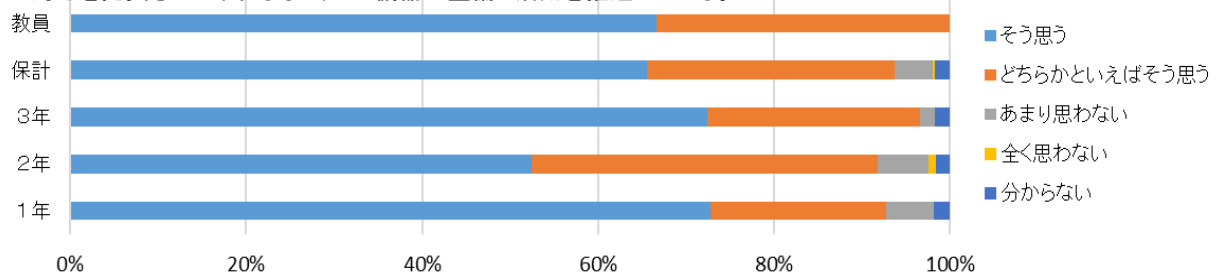


## 【主な実践】

- ICT機器を効果的に活用した授業の推進
  - ・「ロイロノート」, 「AIAIモンキー」等のアプリを活用した授業を実践し, 授業研究会で実践を提示したり, 教育論文や研究紀要において実践を報告したりした。
  - ・対面授業をオンラインで配信し, 授業に欠席生徒や授業に参加することが難しい生徒の学びをとめないよう配慮した(ハイブリット型対応の充実)。
  - ・平素の授業実践においても, ゲストティーチャーや外部との連携を充実させ, 生徒の学ぶ意欲の喚起や動機付け, 学びの価値付けに寄与する工夫を行った。
  - ・ICT支援員による「情報モラル」講座の実施し, 生徒の情報モラルに関する資質・能力の涵養に配慮した。
  - ・GIGAスクール向上委員会における活動をとおして, 生徒が自ら情報モラルの啓発を図る活動を推進した。具体的には, アプリ「Forms」を用いて情報モラルのテストを作成し, 全校生徒を対象に実施するなどの施策を行った。

## 【ICT機器の整備と活用の推進】

学校は, タブレットやアプリ等を効果的に活用したり, 対面授業とオンライン授業のハイブリット型の対応を充実させたりするなど, ICT機器の整備と活用を推進している。



## 【次年度に向けて(案)】

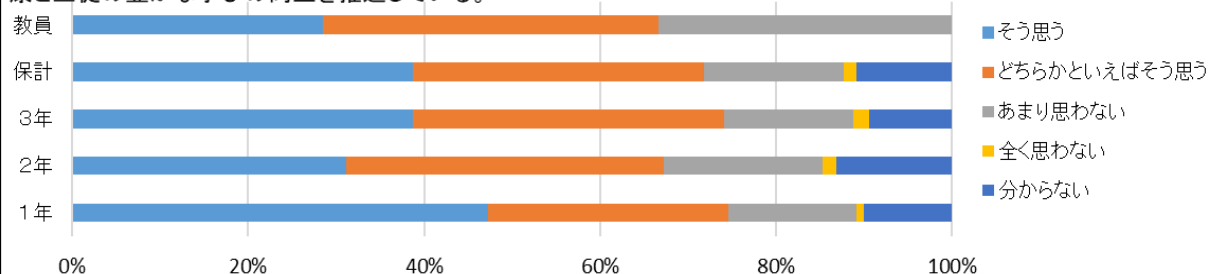
- オンライン配信を継続し, 生徒の学びをとめないためにきめ細やかな配慮を行う。
- ICT環境を整備したメリットを最大限に活用し, 対面で行うもの, オンラインで行うものを精査し, 多面的・多角的な機器の活用を推進する。
- 学習活動におけるツールの活用について, 研修の場を設定し, より効果的に活用するスキルの充実を目指す。
- 学校行事等におけるオンライン活用のメリット, デメリットを精査し, 教員の負担過剰にならないよう配慮して, 効果的で持続可能な活用の方法を精査する。

## 【主な実践】

- 部活動における外部人材の導入の実現を目指し、大学と連携して体制の整備を行ってきた。取組の一環として、大学の授業とのコラボレーションを図り、大学生による部活動の見守り活動を取り入れた。
- 変形労働時間制を実施し、繁忙期と閑散期（夏季休業中など）の勤務時間の調整を図り教職員の負担軽減の実現を目指した。
- 他附属への研修の機会等を奨励し、教員が主体的に研修に参加できるような体制の構築を目指した。
- 教職員が年次休暇やワークライフバランス休暇等を取得しやすい職場づくりに努めた。

## 【教職員の心身の健康増進と豊かな学びの推進】

学校は、部活動における指導において、大学生や外部人材を導入するなど、教職員の心身の健康と生徒の豊かな学びの両立を推進している。



## 【次年度に向けて(案)】

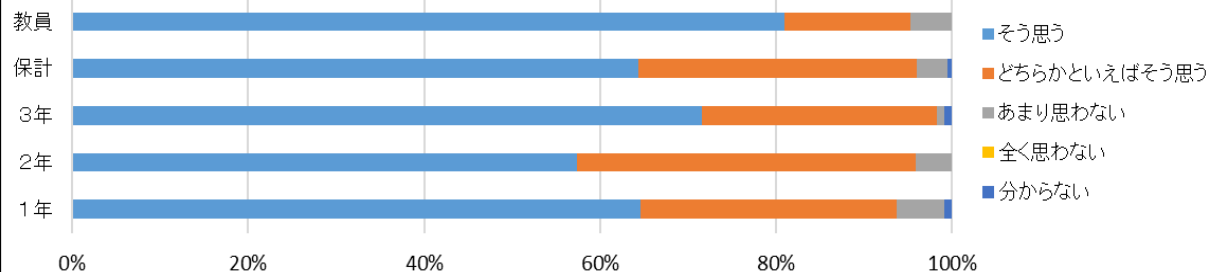
- 部活動指導員の確保及び人材育成の具現化が喫緊の課題であるため、大学と連携し迅速に対応を進める。
- 評価から、保護者への周知や理解が不十分であることが明確であるため、進捗状況についての情報発信、保護者への理解啓発の取組を勧める。
- 教職員の働き方改革が、どのような成果と、課題を含むかについて、保護者や学校関係者に周知できるよう、情報発信に努める。

## 【主な実践】

- 学校ホームページの運営においては、トップページの予定の更新を定期的に行った。
- 学校内の日々の教育活動を閲覧者に伝わるよう、写真と記事の更新を週に3回を目標に行った。
- マチコミメールにPDF資料を添付するなど、保護者へ情報が伝わるよう配慮した。
- コロナ禍の中で、感染症対策を講じながら、対面による授業研究会を実施したり、学校説明会を行ったりして開かれた学校づくりを推進した。
- 常磐春まつりに、作品を出品するなど、身近な地域との連携に努めた。
- 学校評価の結果を、今後ホームページに掲載する予定である。

## 【開かれた学校づくりの推進】

学校は、学校ホームページ、学校通信、マチコミメール等による積極的な情報発信を通して、開かれた学校づくりを推進している。



## 【次年度に向けて(案)】

- 学校ホームページの運用について、次年度に向けて情報発信の充実を図る。  
(ホームページのリニューアル、校務分掌と担当者の見直しを具体化)
- マチコミメールにおける情報発信をより積極的に活用する。  
(マチコミメールの機能をいかす方略)
- 紙媒体で配布する資料と、PDFで配布する資料を分類し、より迅速に情報が家庭に届くように配慮する。